



学校ネットワーク自治体ピッチを開催しました

デジタル庁国民向けサービスグループ教育班

教育DXサービスマップ

<https://ppp-education-dx.jp/>

各社のプレゼンテーション動画を



すべて掲載中／



主催者挨拶（文部科学省 日向審議官）

【1.学校ネットワーク自治体ピッチの開催】

2025年2月17日にデジタル庁と文部科学省の共催により、全国の学校でニーズに見合った高速な通信サービスが適切に選択できるよう「学校ネットワーク自治体ピッチ」をオンライン開催しました。昨年8月の文部科学大臣、総務大臣及びデジタル大臣の連名での電気通信事業関連団体に対する要請を契機として、通信事業者等が全国の地方公共団体・教育委員会に対してプレゼンテーションを行うことを目的に開催したものです。

当日は、質疑応答を含めた発表を行うライブ配信と事前作成・録画したプレゼンテーション動画を紹

介するオンデマンド配信の2つの方法でピッチを開催しました。また、通信事業者等によるライブ配信に先立ち、文部科学省、総務省及びデジタル庁等による関係施策に係る説明も行いました。

【2.学校ネットワークの重要性】

主催者挨拶の後、文部科学省より、1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで教育ICT環境の実現を目指す「GIGAスクール構想」の本来の目的を改めて説明した上で、1人1台端末もネットワーク環境が無ければ十分に活用できないこと、一方で、多数の児童生徒が端末を活用する場合でも支障が起きない水準として文部



施策説明（文部科学省 寺島課長）



ピッチ・イントロダクション（デジタル庁 山本主査（左））



施策説明（デジタル庁 久芳企画官）

科学省が設定した「当面の推奨帯域」を満たす学校は現状2割程度であることを説明しました。また、学校のネットワークの改善に向けて、課題の全体像やその対応策について、事例も含めて紹介しました。

続いて、総務省と電気通信サービス向上推進協議会より、固定ブロードバンドの実効速度の計測手法やこれを消費者に適切に示していくための取組について説明を行った後、デジタル庁より、デジタル技術を使うこと自体が目的化したり、紙がデジタルかの二項対立に陥ったりするのではなく、教育の内容や状況に応じて使い分けていくこと、組み合わせていくことが重要であり、そのためには、端末やネットワーク等のインフラの構築に加えて、それらを含むデジタル技術に関する情報が地域間格差なく届くことが必要であることから、サービスのカタログ化をはじめとする自治体の情報格差解消に向けた取組について紹介しました。

その後、文部科学省より、同日にデジタル庁が公開した「教育 DX サービスマップ（通信分野）」の使い方及び学校のネットワーク改善ガイドブック解説を行いました。



施策解説（文部科学省 新井係長）

【3. 帯域も価格も分かりやすく】

デジタル庁によるピッチ・イントロダクションを皮切りに、光回線サービスを提供する通信事業者等14社によるプレゼンテーションをライブ配信で実施しました。プレゼンテーションの中では、「当面の推奨帯域」に照らし推奨する学校規模の目安と参考月額回線費用を全社から具体的に説明することとし、地方公共団体・教育委員会に、具体的な提案を届けられました。

【4. 動画を公開】

デジタル庁では、当日、ライブ配信を閲覧できなかった地方公共団体・教育委員会の方々に向けて、各事業者のプレゼンテーションのアーカイブ動画を教育 DX サービスマップ上に掲載しています。加えて、光回線サービス、分離型 ISP、移動体通信及びその他の4サービス種別計13社のプレゼンテーション動画も掲載しています。教育委員会におかれては、「当面の推奨帯域」を満たすことができる通信サービスを適切に選択すべく、これらの動画や教育 DX サービスマップを是非ご活用ください。

【5. 今後のイベント】

デジタル庁では、閉会挨拶でも紹介したとおり、教育分野のエコシステムの構築に向けて、今後とも自治体ピッチのように地方公共団体、教育委員会等学校関係者と教育関係事業者等を繋ぐ場を設けていきます。4月23日から25日（東京）及び6月11日から13日（大阪）に開催されるEDIX2025でもデジタル庁の企画が予定されているので、ご参加いただけますと幸いです。



< EDIX2025 >

<https://www.edix-expo.jp/hub/ja-jp.html>



閉会挨拶（デジタル庁 川崎参事官補佐）